

E—13 親子関係についての調査

山口大教育 ○森田 倭文
井上喜久子

1. 家族全員の、特に児童の福祉を守るためには家族関係が正しく保たれなければならない。家族関係の基盤をなす親子関係が非行中学生の家庭と正常中学生の家庭の間で、どのように違うかを究明する一環として本調査を行なった。

2. 昭和41年5月—11月の間に、山口県立育成学校、山口家庭裁判所等にいた中学生とその親100組、防府市立華西中学校2年生とその親、116組、山口大学附属中学校2年生とその親、79組、計約300組に、田中教育研究所、品川不二郎、同孝子氏夫妻共著の親子関係診断テストを実施し、集計分析比較した。

3. 片親や記入不備のものを除き、非行群41組、正常群152組を集計分析比較してみると、10項目中、いずれか危険関係にあるものが非行群では、28%、正常群では16.5%、また好関係にあるものが、非行群では43.6%、であるのに対し、正常群では57.2%とそれぞれかなりの開きが見られた。また親と子の間の評価のズレ、父と母の間のズレ等もいちじるしく、問題そのものの改訂が望ましいものもあった。